STAR WARS in PELELIU CORNER

Photo & Text=**Takaji Ochi**
Special Thanks=**DayDream Peleliu station**

本来なら、

コース取り大失敗のはずだった1本のダイビング

その失敗が、僕たちダイバーを脅威の新事実へと導いた

今まで見たことも無いような信じられない光景が眼前に広がった。

新たな海の表情を垣間見るということは

ときに通常の行動を逸脱する必要があるのだと痛感させられた

数万ものイレズミフエダイの大群が大放卵、大放精を行い巨大なブルシャークたちが捕食に姿を見せる

宇宙空間での空中戦を見ているような混戦常態。こんなシーン、今まで見たことがない

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://daydream.to/peleliu/index.html

通常コースを外れる ハプニングが もたらした新事実

上左,連日のように見ることになった、キャンベック湾の美しい朝焼け
上中,早朝ダイビングのブリーフィングを行う秋野さん
上右,潮の流れに乗って、ペリリューコーナー先端を目指す

カレントチェックで潮の流れを読んで、ペリリューエクスプレスを潜るコース取りを決定する。流れを横切りながら、ペリリューコーナーの先端までをベストのルートを選んで進んでいく。
「早朝の方が、流れが弱く、撮影もしやすいんですよ」というガイドの秋野さんの一言で、その日1日だけ早朝ダイビングロケを行うことになっていた。数人のゲストと一緒に、日の出前、まだ暗い時間帯に、眠い目をこすりながらバンに乗り込み、島の南にあるキャンベック湾に向かう。

まだ薄暗い中、この時間帯に多いサンドフライを避けるようにボートに乗り込み出発した。水平線にかかる雲間から朝日が昇り始め、空が徐々に明るくなってきた。そんな時間帯にエントリーを開始する。（こんなに朝早く潜るなんて、とても、毎日続ける気にはなれないな……。まあ、撮影で潜るのは今日だけだから）。そう思いながらカレントチェック、ブリーフィングシーンを撮影しながらエントリーを待つ。

カレントチェックによると、この日、潮の流れは早朝にしては早い「竹の下」。何か大物などに遭遇しても、撮影のために、その場に留まるにはちょっとハードな流れだ。僕らは、数人のゲストダイバーたちと一緒にエントリーし、東側のドロップオフに沿って、コーナーの先端を目指す。潮の流れは、北東から南西に向かって流れていた。しばらくは、水深10mの中層を移動しながら、潮の流れを横切るようにドロップオフ上を北から南下する。頃合を見て水深20数メートルのリーフトップまで一気に潜行して、潮の流れの裏に回りこむルートを取る。それが通常のルートだ。
しかし、この「流れを横切る」段階に、何人かのゲストがついて来れなくて、誤ったコース取りをしてしまうと、あっという間にリーフの中側に押し流されてしまう。本来なら、しばらくは東側のドロップオフに沿って移動し、張り出したリーフのかなり先端まで移動してから潜行を開始して流れの反対側に回り込む。

この日も、ブリーフィングで入念にコース取りの説明をしたにも関わらず、初めて潜ったゲスト2名が、流れを横切れず、リーフの内側に流れ込むアップカレントにつかまって、どんどん流されていく。僕と秋野さんはマスク越しに目線を合わせる。（これじゃあ、通常のコース取りは無理だな）。お互い、そんな顔をしながらも、ある程度まで先端に進めるようにと、どんどん離れていく2名に（もう少し、もう少し頑張って!）と合図を送る。
しかし、二人はさらに離されていく。
（ここまでです）。
秋野さんが諦めの表情を見せた。僕も（今日の早朝ダイビングはこれで終了か〜。何も撮影できなかったな。明日も早朝かな……）とすでに撮影意欲もなくなり、流れに逆らうことも諦めて、リーフの内側へと流されていった。後は何も無い学校のグランドのようなフラットなリーフトップを西側まで流されて浮上するだけだ。

そう思っていた矢先、流れの先にうっすらと魚の群れらしきものが見えてきた。（あれは?何の群れだろう?）そう思って眺めていると、群れがどんどん接近してきた。否、群れの方じゃなくて、僕らが群れに向かって流されていたのだった。それは、昨日までイエローウォールで見ていた、数万にも及ぶイレズミフエダイの大群だった。（何だ!この群れは!!）

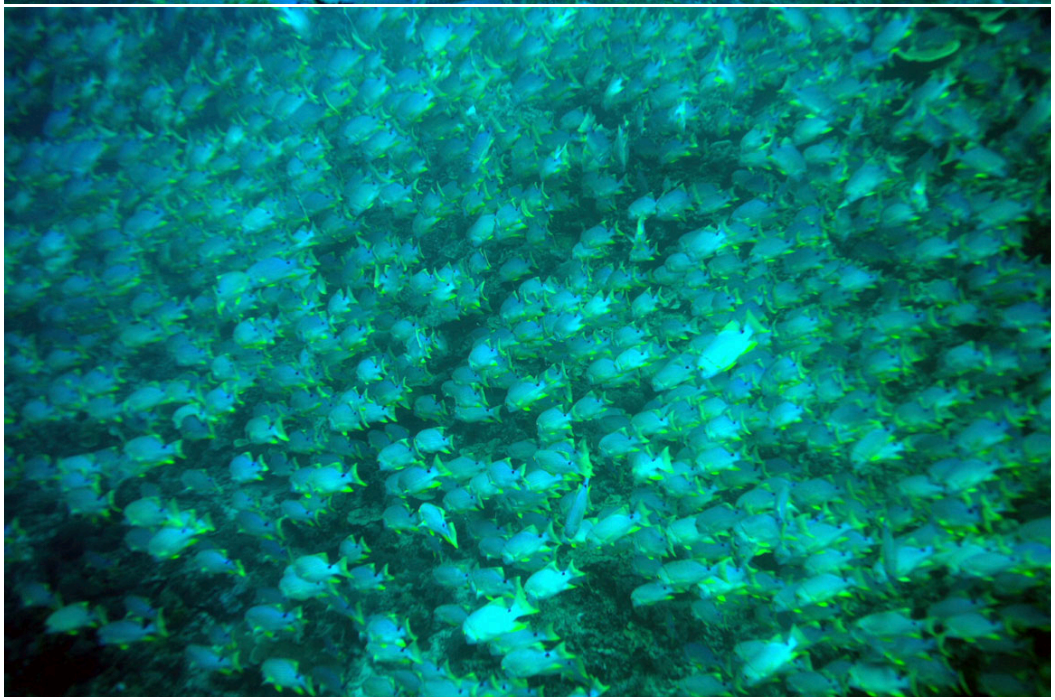
©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

それは、数万にも及ぶイレズミフエダイの大群だった

左,リーフトップに敷き詰められたイレズミフエダイの群れに愕然とした
右,早朝の流れは、穏やかなことが多く、皆リラックスしてダイビングを堪能していた

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://daydream.to/peleliu/index.html



上,イレズミフエダイを狙って、深海から姿を見せたハビレがの姿が!
下,どんどんとイレズミフエダイの群れをリーフエッジへと追い込んでいく

スターウォーズの空中戦に突入

怪我の功名？　僕は慌ててカメラを構えた。流れに乗って皆が群れに突入する。群れは、フラットなリーフ上を覆いつくしていた。しかも、様子がおかしい。イレズミフエダイたちの多くが、体色を黒くして、数匹が玉のようになって、リーフから一気に離れて浮上して、放卵と放精を行っていた。それだけではない。このイレズミフエダイたちの間、間に、巨大なサメの姿が目撃された。（ブルシャークだ!）。僕は、身体を緊張させてカメラを身構えた。しかも1匹や2匹ではない。

激流に流されているため、リーフ上に留まってサメや放精シーンを撮影することができない。流されるがままにシャッターを切り続ける。しかし、興奮しているのが自分でもわかる。カメラのセッティングを確認する暇も無い。構図もままならない。

無数のイレズミフエダイたちの激しい放卵と放精が、まるで煙幕のように、海中に霧散する。その合間をぬうように姿を見せるブルシャークの巨体。僕は映画「スターウォーズ」の宇宙での空中戦シーンに紛れ込んでしまったかのような状況に、正直どこをどう撮影していいのかわからないようなパニックに陥っていた。イレズミフエダイたちがスターシップ（小型の宇宙戦闘機）だとすると、ブルシャークはスターデストロイヤー（帝国軍の宇宙戦艦）と言ったところだ。（1匹、2匹、3、4、5……）、そのような状況にありながらも、ブルシャークの数を確認していた。同時に、見慣れないサメも確認していた。ドラム缶のようなブルシャークの体躯とは違う、シャープな印象のサメ。しかし、今まで見たことが無い。後に調べたところ、「ハビレ（Bignose　shark/C.altimus）」という深海性のサメだということがわかった。「おそらくパラオでは初記録だと思います」と秋野さんが説明してくれた。明らかにイレズミフエダイを狙って、深場から一緒に上がってきたに違いなかった。

ブルシャークは10匹、ハビレも7〜8匹を確認していた。あっという間に空中戦地帯から流され、リーフを過ぎると、浮上を開始。いつもと違うルートを通ったためか、秋野さんは通常より大きめのフロートを上げた。安全停止中も皆放心状態。僕も放心していたのだけど、意味が違った。（まともに撮影できなかった……）ということへの放心。

安全停止を終了して、浮上する。ボートはすでに近くで僕らの浮上を待っていた。巨大なフロートに足を絡めてしがみつき秋野さんが満面の笑みを浮かべて叫んだ「すげ〜! ペリリューすげ〜!」。僕も（すげ〜!）とは思っていたのだけど、マスクを半分海中に沈め、まともに撮影できなかったことを悔やんでいた。

しかし、以前から秋野さんと話していた予測が、このダイビングで明らかになった。「どこで、どんな時間帯にイレズミフエダイたちは、放卵を行うのか?」。それまではイエローウォールに群れる時期しかわかっていなかった。「夕方になると、群れがコーナー側に移動していくのが確認できています。もしかしたら、コーナーのどこかで放卵を行っているのかもしれないですね」。その予測が、的中したのだ。

1日しか潜らない予定だった早朝ダイビング。この日から、ロケ最終日まで連日欠かさず潜ることになってしまったのは、言うまでもない。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

上左,スターシップ同士の激戦、ロウニンアジとイレズミフエダイの混戦状態
上右,イレズミフエダイの群れを掻き分け、悠然とリーフトップを進むブルシャーク

混戦状態！サメたちは、巨大なスターデストロイヤーさながらにアタックを繰り返す

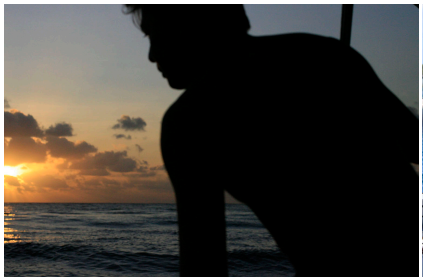
下左,ドロップオフを泳ぐハビレの雄姿に、多くのダイバーが感動していた
下右,ロウニンアジの群れが、何度も何度もダイバーたちを取り巻いた

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://daydream.to/peleliu/index.html

ドロップオフにつかまって、激流を避けながら、ブルーウォーターでの激しい展開を眺める

連日、ペリリューエクスプレスでの早朝ダイビング



左,日が昇り始める頃にエントリーを開始する
右,ブルーコーナーもラッシュアワーを避けて潜ることも可能だ

この日から、僕らのペリリュー島での生活が一変した。夜までビールを飲んでいたのに、控えるようになった。初日に撮り逃したシーンを撮影しようと、色々作戦を考えた。流れが弱ければ、リーフに留まってサメたちが接近してくるのを待った方が良いのかとか、皆で散開して、イレズミフエダイの群れをリーフエッジに追い込んだ方が得策かとか、様々なアイディアを検討しあった。

リーフに留まってブルシャークたちが接近してくるのを待ったが、結局警戒されて、なかなか接近してきてくれなかった。しかし、ゲストも交えて散開してイレズミフエダイを追い込む作戦はかなり有効だった。初日以来、「竹クラス」の流れが発生せず、緩い「梅」の流れのみ。どうやら、流れがある程度ないと放卵、放精を行わないらしく、リーフ上では体色が黒くなることもなかったが、群れをリーフエッジにまで追い込んで、ドロップオフを越えると、イレズミフエダイの体色が急に黒くなって、放卵、放精状態になることがわかった。

おまけに、タイミングや追い込む位置を間違えなければ、先端にいるロウニンアジの群れと交じり合って、またまた混戦状態になる。イレズミフエダイの群れに、ロウニンアジの群れが突っ込み、そこにブルシャークやハビレがアタックを繰り広げる。こんなシーンが見れるのであれば、早朝ダイブを欠かすわけにはいかなかった。

このロケ期間中（2007年3月）の目的は、イエローウォールのイレズミフエダイの大群だった（驚愕の黄壁・ペリリュー・イエローウォール　WEB-LUE.Vol.9）。しかし、それ以上の大迫力シーンを、今回ペリリューエクスプレスで見てしまったのだ。イレズミフエダイの群れが見れるのは、2月、3月、4月、5月の新月前。特に3月の群れが大きいらしい。

取材で、予定以上の何かを発見することほどワクワクすることはない。まだまだ開拓途上の海、ペリリュー。次回の取材では一体どんな表情を僕に見せてくれるのか。デイドリームのガイドたちの開拓にも今から大いに期待している。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

ペリリューコーナーの先端で婚姻色になり、乱舞するイレズミフエダイの群れにロウニンアジの群れが突っ込んでいく

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://daydream.to/peleliu/index.html

左上,ガジュマルの木によじ登って撮影してみた。意外と簡単に登れてしまう
左下,連れてきた息子たちは、毎日近所の子供たちと一緒に遊んでいた

食事を取るマユミインの、マユミお母さん（真ん中）たち

こちらは、ペリリューイン

ペリリュー島滞在の魅力

今までの特集で、ペリリューエクスプレスを中心に、ペリリュー島周辺のポイントをクローズアップしてきたが、実はブルーコーナーなどへの距離もコロールより近い。スピードボートで20分程度。ただし、州が違うために、別途ダイビング税を支払わなければいけなくなるそうだ。
それでも、早朝にブルーコーナーに潜りに行くというのも悪くはない。

激しいダイビングを行った後には、村の中でのんびりしたり、ジャングルやビーチに赴き、撮影を行った。初めて訪れた時から、気になっていたのは、ジャングルで目にするガジュマルの木々。様々な木々に寄生して成長する姿は、奇妙ではあるが、沖縄のキジムナーや、サイパンのタオタオモナと同じような精霊たちが住んでいるかのような様相。その不思議な姿に心引かれて、島中を探しまわった。ペリリューでは、車道のすぐ脇にいくつものガジュマルを見ることができる。

興味を引かれたガジュマルのほとんどが、中心が空洞のようになっていて、住居にするにはうってつけ（?）の雰囲気。ここに木を組み合わせて、はしごをつけて、屋根をつけて、基地を作ってみるのも悪く無いと、様々な空想を働かせた。

村の中では、島民との交流が印象に残っている。今回も家族で訪れていたからというのもあるのだが、隣近所の人たちや子供たちと、のんびりとした時間を過ごすことができた。彼らと一緒にいるときに感じる、なんともいえない居心地の良さは、壁を作らず、人を拒むことをせず、かといって無理強いしない人々のおおらかな心のせいだろう。

裏心の無い笑顔はこの島の宝物。彼らにいつまでもその笑顔を忘れないでいて欲しいと願うのは、身勝手なことだろうか。

Information Link click 関連情報HPへ
http://daydream.to/peleliu/index.html

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

この島には、
訪れたすべての人を受け入れてくれる
おおらかな空気が充満している。
それは、島人たちの
無邪気で、優しい心のオーラ。

裏心の無い笑顔は
この島の宝物だ

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

INTER VIEW
インタビュー

イレズミフエダイの大放卵に遭遇した人々

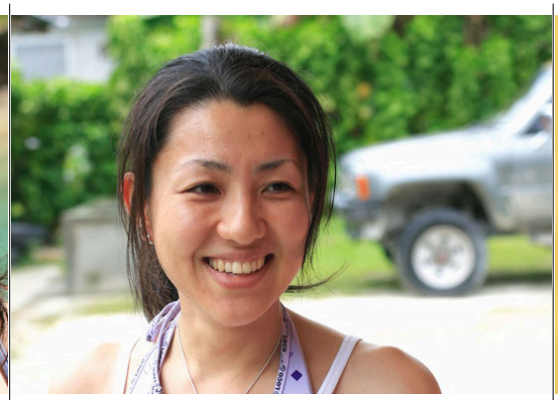
①ダイビング本数　②パラオ訪問回数
③ペリリュー訪問回数
④イレズミフエダイの大放卵に遭遇した感想他
⑤島に対する感想

立川 和代さん
Kazuyo Tachikawa

①400本　②2回　③島滞在は初めて
④ダイビング初日1本目にマカジキが見れて、びっくりしすぎてしばし呆然。うわっ～、本当に見れちゃった、格好いいな～すごいなーと、悠然と泳ぐ姿にじっくり見入ってしまいました。毎日増えていくイレズミフエダイの群れでも感動したのに、その産卵シーンでは魚達のもの凄く早い動きが圧巻でした。凄いっ!その一言に尽きます。忘れられない1シーンとなりました。
⑤以前、ボートで島まわりした時、何だか足を踏み入れてはいけないような複雑な心境になったのですが、今回滞在して、自然が多く、とてものんびりできる島だと思いました。ランドツアーに参加し、歴史を少しでも知ることができたのがよかったのだと思います。

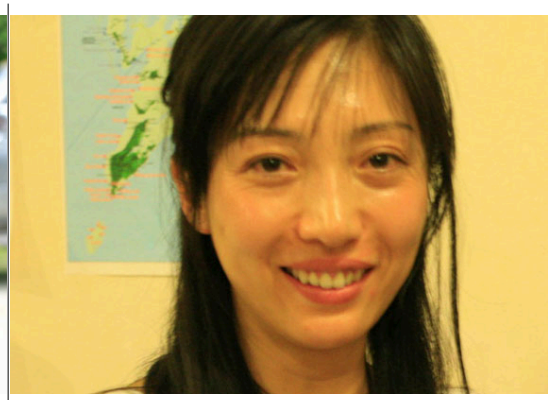
内田 晃子さん
Akiko Uchida

①150本　②4回　③初めて
④イレズミフエダイの大群&産卵?を見ました。感想は"なんじゃこりゃ～"です。狙ったわけではないのに、たまたまイレズミフエダイの大群の中に迷いこみ?ました。前日までにもイエローウォールでイレズミフエダイの大群を目にしていたのですが、それまでは彼らのいるところを狙いこっそり近づくという、戦法をとっていました。が、このときは狙ったわけではなく、たまたま迷いこんだのですが、前日までの整然と並んで行動している彼らとは違って、いきり立っているようなピリピリした、半狂乱のような、喜怒哀楽のある、まさに彼らの生を感じる場所でした。昨日まで見ていたのと同じ生き物とは思えないほど、感情があり、力強く感じる場面に、なんだこれは……と思い、彼らの行動から目が離せず、大変興味深い体験でした。いつもはイレズミの群れという感じでしたが、このときは彼らの生活を見た感じがあり、イレズミフエダイ村を見たという感じでした。あまりにもビックリして、彼らばかりを凝視していたため、彼らを狙っているサメ達の観察をあまり出来なかったのを大変後悔しています。
⑤最初は何もなく戸惑い、少々退屈に思いましたが、非常にのんびりしていて、のどかでたまにはこんな所に来るのもいいな～と思いました。　しかし、60年前を思うと考えさせられる事も多く、戸惑いを感じる島でもありました。



佐々木 幸重さん
Sachie Sasaki

①350本　②8回　③島滞在は4回、デイトリップで訪れたのも含めると10回くらい
④今回、初めてイレズミフエダイの放卵を見ました。去年・一昨年も、この時期にイエローウォールでイレズミフエダイの群れは見に来ていたのですが、デイトリップで早朝ダイビングはできなかったので、今回初めての体験です。その周りにいる、「ハビレ」もはじめてみました。サメ好きとしては、あの筋肉質な体に見とれてしまいました♪
エントリー前の緊張感と、ロウニンアジの群れやカジキと、ターゲットをゲットした後の達成感は、他のポイントではなかなか味わえないものだと思います。ガイドさん的にはあんまり流れていないほうが、ゲストを連れて行きやすいのかもしれませんが、わたしは、激流れのエクスプレスのほうが、エキサイティングで大好きです。
⑤のんびりしていて、いい人が多い島だと思います。自転車を借りて、島内をサイクリングしたときは、みんな気さくに声かけてくれました。2時間くらいのサイクリング中に会ったのは、10人くらいでしたが……。



松下 由美さん
Yumi Matsushita

①432本　②4回　③3回
④早朝で、イレズミの数万の群れの中からツムブリの群れが突進してきて、その奥にロウニンの群れが見えたときには鳥肌たちました。感想は一言に尽きます。「スゴイ……、こんなポイントが世の中にあるのだろうか?」。バショウのペア1回、マカジキ1回、ハンマーヘッド単体3回、ブルシャーク4回、ハビレ4回イソマグロの群れ、そしてクリーニングシーン。キハダの群れ、シルバーチップ2回イレズミ数万の群れ、すっっごいロウニンの群れに巻かれること5回……、どれも鼻血がででそうなくらい大興奮して「エアがゼロになったのでは?」と心配するほどでした。カジキのときは人生でありえないほどのスピードでダッシュ。名前すら知らなかったハビレは一目見ただけで「こいつは違う!!」と、筋肉質な体に恋してしまいました。でもでも何よりも感動したのはロウニンの群れ……。ロウニンが大行進で私に向かって突進してきて、トルネードに巻かれ、群れの中で一緒に泳ぎ、もう現実とは思えない光景でした。
⑤車よりお犬様のほうが偉く、道路の真ん中でお昼ね……。歩くと島の人が挨拶して声をかけてくれる……。テレビもラジオもない……。降ってくるような満天の星……、ジャングル……。今都会で味わえないやさしい時間が流れていて、私にとって心身の洗濯ができる場所です。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link click 関連情報HPへ
http://daydream.to/peleliu/index.html

INTER VIEW
インタビュー

イレズミフエダイの大放卵に遭遇した人々

永吉 真美さん
Mami Yoshinaga

①150本　②3回　③3回
④ペリリューエクスプレスはすごい!常に何が出てくるかわからないわくわく感と、ポイントはもちろん、同じ場所でも、時間帯やコース取り、潮流などによって文字通り、さまざまに表情を変える海の面白さを感じます。大海原の一端を垣間見て、(飼いならされていないというか)、リアルな自然に触れられる気がする場所ですね。ブルはエキスプレスで毎日見て、太ったサメで強そうだな〜と思っていました。が、5〜6mほどの距離で同じ深度で見た時は、我々を見て、ターンし、一瞬向かってきたためその目と歯を見て「うわっ!食べないで」と思わず話しかけました。ハビレは毎日筋肉質なその姿にかっこいいな〜と見とれ、今回のペリリューで一気にファンになりました。グレートハンマーをエキスプレスで見た時は、かなり深い場所で、イレズミフエダイの群れの中に入りアタックしていたので、周りにいるハビレなどに比べて、あまりに大きな巨体に迫力を感じました。
⑤緑の濃さと鳥の声、星の美しさが印象に残っています。自然の生命力を感じ、そこにいるだけで、日々自分にも生物としてのパワーが満ちてくるような気がしました。反面、戦争の名残りをそこここに感じ、いろんなことを考える場所でもあります。島の人々の純粋な温かさに触れ、シンプルな生活がとても心地よく、いろんなものが緩んでいきそうな島ですね。

米本 純子さん
Jyunko Yonemoto

①172本　②4回　③1回
④毎回流れが弱く、本来の姿では無いと思いますが……緊張するポイントですね。なんといっも、まるで滝のように流れるイレズミとロウニンにはめまいがするほどでした。彼らが去ったらどんな風景へと変わるのでしょう。とにかく、すべてが私にとっては特別でした。マカジキが鰭を開いた時の輝きは美しかったですね。ブルが進路を変えて向かってきた時は怖過ぎて何故か私、笑うしかありませんでした。自分で見つけたハンマーも忘れられません。他の人が気がつくまで暫く平走できたのは追いかけなかったからでしょうか。サメ好きの私には、とても幸せな数分でした。ハビレのアスリートのような体はカッコ良かった〜。好みのサメです……。
⑤「音が無い」……聞こえるのは通り過ぎる風の声だけ。そんな感じでしょうか……。

①ダイビング本数　②パラオ訪問回数
③ペリリュー訪問回数
④イレズミフエダイの大放卵に遭遇した感想他
⑤島に対する感想

NEWS
ニュース

新生ペリリューステーション

来シーズン(2007年11月1日〜)からペリリューステーションの指揮を執る人物が交代する。ステーションの立ち上げから開発までの2シーズン、この海に関わってきた秋野大さんがコロールに移動し、今までコロールで指揮を執っていた遠藤学さんへとバトンタッチして新生ペリリューステーションが11月よりシーズンインすることになった。

スタッフも大幅な変更があり、ガイドのスタイルも様変わりするかもしれない。そんな新生ペリリューステーションにも今後期待していきたい。

©WEB-LUE ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます